

First & Start

自宅で はじめて ボランティア

自宅でボランティア 参加者募集

夏のボランティア体験『夏ぼら2021』では、3種類の新たなプログラムを企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、残念ながら会場での「ボランティア体験Day」は中止となりました。しかし、「自宅で体験ボランティア」「野外ボランティア」には多くの方が参加し、大盛況でした。(詳しくは、冬号でご報告いたします)。

出向いての活動に限られる状況が続くなか、地域の方や施設・団体とのつながりをもてるように、自宅で行えるプログラムについては、秋以降にも体験いただくことができます。絵ハガキづくり、切手整理、点字体験など、ご興味がありましたらぜひお問合せください。

体験ボランティアをして切手を切ったことにより、切手がどのように利用、使用されるのかを知りました。

切手整理を体験しました!

手紙を書いたり、切手を使ったりしたい。他の人に広めたり、自分の出来ることを見つけてやっていきたい。

とても人の役に立つという部分で、やりがいを感じることができました。



外国のレアな切手やきれいな景色の切手など、普段みることのない部分に気付くことができました。とても楽しかったです。

文京ボランティア支援センター TEL 03-3812-3114 Eメール vorasen@bunsyakyo.or.jp



どっとフミコムでは、ボランティア情報やワークショップ・イベント、文京区で活動されている団体の紹介など、さまざまな地域活動の最新情報を見ることができます。気になる情報は、どっとフミコムのサイトでチェックしてみてください! ▶▶▶



<https://d-fumi.com>

ご相談
ください

ボランティアに関心がある方、興味を持った方、

やってみたい!

してほしい

話を聞きたい!

など、ボランティアについての質問や問合せ、ご相談を下記、文京ボランティア支援センターまでご連絡ください。

発行 社会福祉法人 文京区社会福祉協議会 文京ボランティア支援センター

<http://www.bunsyakyo.or.jp>

〒113-0033 東京都文京区本郷4-15-14 文京区民センター4階

開所日 月～金曜日(祝日年末年始除く)

TEL 03-3812-3114 FAX 03-5800-2966 Eメール vorasen@bunsyakyo.or.jp

窓口開所時間 8:30 ~ 17:15

ぼらんていあニュースは、封入ボランティアの皆さんのご協力のもと、お届けしています。いつもご協力ありがとうございます。

令和3年9月
発行秋号
令和3年

ぼらんていあ ニュース

あなたらしく。
はじめる、つながる。
きっかけ応援誌!

TOPICS

1 「ツキイチ」ボランティア
4 自宅でボランティア

2/3 特集 福祉学習

ご自由に
お持ちください

TAKE
FREE

1度だけでも。1時間だけでも。 「ちょっと覗いてみよう」から始まる ボランティア、あります。



今年度から始まった月1回のボランティア活動、「ツキイチ」。感染拡大の状況をみながら、実施を予定しています。使用済み切手の整理、絵ハガキづくり、高齢者疑似体験セットの整備など、月ごとに違う内容を企画しています。4月には、軽作業ボランティアを行いました。区内の在住・在勤・在学でしたらどなたでも、1度だけでも、1時間だけでも、ご参加いただけるボランティア活動です。自由に入出入りいただけますので、「あ、そうだ」と思ってくださいたらお気軽にお問合せください。



実施日 令和3年 9月21日(火) 10月19日(火)

11月17日(水) 12月16日(木)

令和4年 1月21日(金) 2月21日(月) 3月16日(水)

時間 午後2時～4時 出入り自由です

場所 文京区社会福祉協議会
ボランティア活動室
※変更の可能性があります
・文京区本郷4-15-14
文京区民センター4階

参加対象 区内在住・在勤・在学の方

申込締切 各実施日の前日(実施日が月曜日の場合は、前の週の金曜日)までに、下記までお申込みください。

感染状況により、変更させていただく場合がございます。

文京ボランティア支援センター TEL 03-3812-3114 Eメール vorasen@bunsyakyo.or.jp

EYES ON
特集 寄り添う心を育む「福祉学習」

～一人ひとりができることを考える～

講話や体験学習、障害のある方や高齢の方との交流を通して、子どもから大人まで地域のさまざまな方々に、自分たちの暮らすまちの福祉に関心を持っていただくため、福祉学習は学校をはじめ団体や企業などで実施しています。今回は、2つの学校での取組みを紹介します。

一か所に大勢で集まることは難しい状況が続いていますが、今後も学習の機会はできる限り提供できるよう、コロナ禍での実現の方法を、地域のみなさまと一緒に考えていきたいと思います。

ボランティア講話(京華女子中学校)

5月22日(土)、京華女子中学校にて、1年生から3年生を対象にボランティア講演会が行われました(対面とオンラインのハイブリット型)。

講師の浅野電一さん(一般社団法人 Project72)より、「共生社会を生きるって～違いを認める+やりたいことより、できること～」、鈴木正人さん(NECネットエスアイ株式会社)より、「ボランティア活動について～共生社会の一員になるため～」というテーマで、災害ボランティアをはじめとするさまざまな活動や日常からできることなどについてお話いただきました。



鈴木 正人さん(左)と
浅野 電一さん(右)

講師メッセージ

『共生社会の一員になる為には』のお話をいただき、自分の経験したことをお話をさせていただきました。ボランティアとは何か?大きな領域でのボランティア活動(災害ボランティア・スポーツボランティア・個人でも手を差し伸べることもある)などの話から、現場で大事にしていること『現場・現物・現実』(3現則)「現場に足を運んで、現物を見て、現実を知れ」を伝えました。これからの社会を担う若者に、行動を起こすときの注意点、何を指すか?そして、まずは1歩フミコムことが大事であると伝えました。

NECネットエスアイ株式会社 鈴木



募金やエコキャップ、
将来のために信頼関係を
築けるようなコミュニケーション
能力を高めていけるよう、
あいさつなど身近なことから
はじめていきたいです。



私たちにできることは、
困っている人を見かけたら、
すぐに一番良い助けをすること、
またはその勇気が
必要だと思いました。

手話体験(竹早中学校)

7月12日(月)、東京学芸大学附属竹早中学校にて、2年生を対象に手話体験が行われました(オンライン)。

「自分たちと立場の異なる人々のことを知る」というテーマで、講師の酒井美穂さん(文京区聴覚障害者協会)より聴覚障害のある方の立場から、佐伯富美子さん(文京手話会)より手話通訳者の立場からお話いただき、最後は手話でのあいさつや歌を体験しました。

手話は、視線を合わせてコミュニケーションをとることが大切ですが、緊急事態宣言下で、やむなくZoomで行われました。しかし、講師の話に引き込まれた中学生の反応が豊かで、画面越しにも大変有意義な時間となりました。

聞こえる、聞こえないに
関係なく、コミュニケーションを
取ることが大切だと感じました。
今日のような機会を
得られて良かったです。



手話通訳者は
とても大切なのに、
できる人が限られている事が
どうにかできないかと思った。
学校で教えれば
少し変わるのかな。



講師メッセージ

初めてのオンライン指導。生徒さん一人ひとりとお会いできず、残念でしたが、先生方のご尽力により、全体の雰囲気や反応がうかがえてありがたかったです。限られた時間でしたが私たちにとっても貴重な体験となりました。

文京区聴覚障害者協会 酒井

文京手話会 佐伯

First & Start
自宅で はじめて ボランティア

自宅でできる点字体験キット

点字は6つの点の組み合わせでできている、目の見えない、見えにくい方にとって、とても大切な文字です。今では、家の中や駅、公共施設などで見かけることができ、とても身近な存在になっています。

この点字体験キットでは教材を使って点字を書く体験ができ、それをサークル・六点会の皆様のご協力でご提供させていただきます。

今回、教材に「きくもんの手作り絵本」が加わりました。ぜひ、点字を楽しく学び、絵本を点字に訳してみませんか。



きくもんの手作り絵本